

School Life in 千秋 Vol.25

●●●●●●●● 前期 終業式 ●●●●●●●●

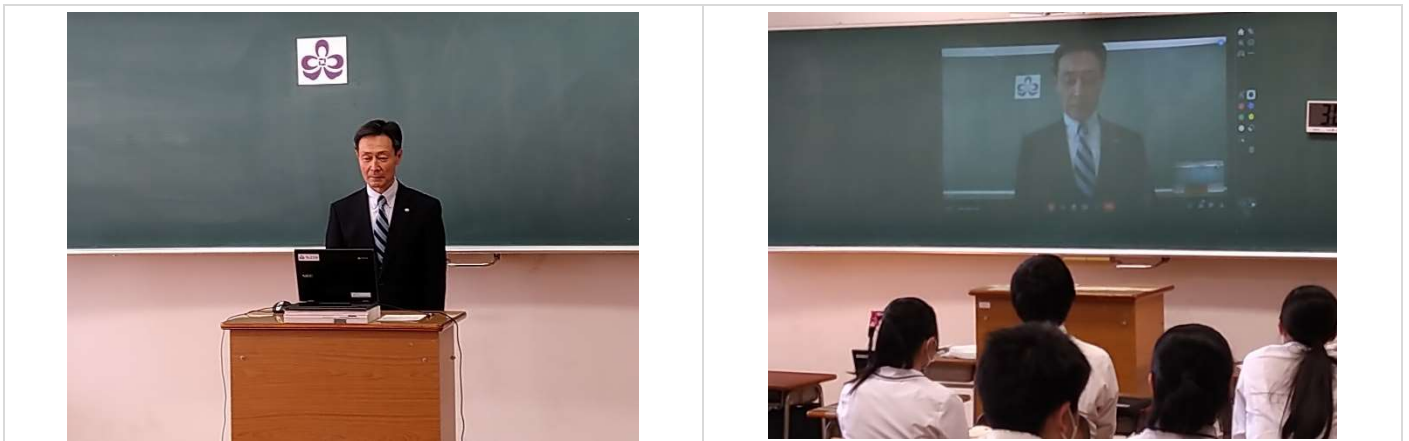
校長先生のお話

今年度の前期が今日終わります。校歌や校訓に沿って一人一人が夢や希望、目標に向かって過ごしてきたことと思います。いかがでしょうか。悩みを抱え、思うようにいかないことの方が多く、主体性や計画性が不十分だったこともあったことでしょうか。今日は、この半年を振り返り、良かったことを強みとし、明日をより良くするための心構えや大きな計画をつくる日にしてください。夏休み前に進路指導主事の杉田先生が話した「3つのや」はできていますか。「やる気」、「やり方」、「やり続ける」。「3つのふとじ」はどうでしょう。「不得意科目の克服」、「得意科目や分野を伸ばす」、「時間をかける」。いかがですか。

3年生は、いよいよ進路実現の秋を迎えます。一人一人の希望が叶うように全校一致の精神で指導していきますので、日々の取組を確実に仕上げてください。2年生は、北高での生活がちょうど折り返します。生徒会執行部も交代し、ほとんどの部活動が新しいチームになり、新人戦でも活躍しております。北高のエンジンとして、学校をリードしてください。1年生は、進路の目標が少しずつはっきりしてきたことでしょうか。迷っている人も多いと思います。何も恥じることはありません。大いに悩み、迷い、自分とは一体何者なのかと問いかけて、目標を定めてください。○図書室前に、北高の卒業生で体操競技のオリンピックであり、参議院議員を務められた小野清子先生が揮毫された「学遜志」という扁額があります。言葉の意味は、学問は謙虚であることが大切ということです。私たちは、日々学んでいます、わからないことがたくさんあることをその都度知ります。わからないことを知ること、わからない自分を知ることが喜びとし、決して横柄にならず、学び続け、光り輝きたいものです。

図書室には「琢磨」と書かれた額があります。これは、いうまでもなく、互いに磨き合うという意味で、磨き合いを通して輝きが増すということにつながります。互いに磨き合い、競い合うことを通して、成長することは先人のみならず、同世代の姿からもわかります。そのとき、忘れていけないことのひとつが「対話する」ことだと思えます。相手に向かって、自分の考えや思いを言葉に乗せて伝える。そして互いに伝え合うことがとても大切だと思えます。でも、これは難しいことで、家族ですらうまくいかないことがあります。どうすればいいのでしょうか。状況にもよりますが、もしかすれば、譲り合うことなのではないかと思えます。「ごめん」とか、「すみません」と言う。道を譲る、席を譲る、など。いずれにしても、言いにくいことや辛いことを伝え合うことのできる環境、人間関係をつくっていきたいと思えます。これは、互いを尊重し、高め合い、支え合う北高の根幹だと思えます。北高生は、きっとできます。お願いします。

来週火曜日から後期ですが、目標をしっかりと携え、登校してください。終わります



今回の終業式は、リモートで行われ、生徒は教室で校長先生のお話を聞きました。